



# ほけんだより



御懸場市福祉事務所

令和2年 7月号

夏場に注意

## 子どもに多い皮膚トラブルについて知ろう！

夏に多く見られる感染症や皮膚トラブルは、治りかけてもまた繰り返したり、治るまでに時間がかかってしまうことがあります。この時期は、子どもたちの皮膚トラブルをよくみかけます。予防を心がけていても、かかってしまうことがあります。症状や対処法について確認しておきましょう。

### 伝染性膿痂疹(とびひ)

#### 【症状】

虫刺されやあせも、すり傷などに黄色ブドウ球菌などが入り込み、水ぶくれができます。水ぶくれが破れ、それをかいた手でほかの皮膚に触れると広がります。

#### 【家庭では】

滲出液が多い時や患部が広範囲な時は1~2日間、登園を控えます。患部を覆うことができれば登園も可能です。プールはとびひの症状がおさまるまで控えます。患部は石けんとシャワーで洗い流して清潔にします。

### 伝染性軟属腫(水いぼ)

#### 【症状】

白色で水っぽい光沢のある1~5mm大の半球状の腫瘍で、表面は平たく中央に凹みがあるいぼが、からだにできます。数か月から2年程度で自然に消失するといわれています。

#### 【家庭では】

こすとうつるため、わきの下や腕などでは広がりやすいので注意しましょう。また、タオルやビート板などを介してうつるため、共有はしないようにします。

### 汗疹(あせも)



#### 【症状】

背中やひじの内側、首などに白や赤色の発疹が広がります。白く小さいものは、1~2日で治りますが、赤いものは皮膚の炎症があり、かゆみを伴います。

#### 【家庭では】

汗をかいたら、シャワーで流したり、こまめにタオルで拭いたりします。また、着替えさせます。かゆみを伴うため、掻かないようにつめは短く切っておきましょう。

### 虫刺され



#### 【症状】

蚊やブユなどに刺されると大きく赤く腫れることがあります。かきこわさないようにします。

#### 【家庭では】

患部を石けんでよく洗い、市販の虫刺されやかゆみ止めの薬などを塗ります。患部を冷やすとかゆみが軽減されます。



### 日焼け



#### 【症状】

過剰に紫外線を浴びると、皮膚がやけど状態になる。ひどい時には水ぶくれになったり、熱がでることがあります。

#### 【家庭では】

まず、からだを冷やすことが有効です。水疱ができてしまった場合には受診をすすめます。帽子や子ども用の日焼け止めを使用しましょう。日陰での活動をするなどの工夫をしましょう。

※炎天下の戶外活動は、熱中症の危険もあります。

熱中症対策として、紫外線対策と共にこまめに水分補給を行きましょう。

「新しい生活様式における熱中症予防対策」についてほけんだより号外にのせていますので、ご覧ください。

